

コンテンツなど、バラエティー豊かな観光資源がそろっております。

今後の若松の観光振興に関する方向性については、雄大な自然景観をベースとし、民間事業者による新たな挑戦や投資を促していくとともに、バラエティー豊かな観光資源のさらなる磨き上げを行ってまいります。このエリアを訪れた方がわくわくするような活気ある観光地となるよう、取組を着実に進めてまいります。

### 建設局長答弁

観光地若松の魅力向上とインバウンド受入れの推進についてのうち、遠見ヶ鼻への展望台の設置や鬼の洗濯岩周辺の遊歩道の設置などにより、回遊性を高めるという取組が必要ではないかという御質問にお答えします。

遠見ヶ鼻や鬼の洗濯岩は響灘に面した風光明媚な場所です、若松区の安屋から佐賀県の東松浦の海岸まで続く玄海国定公園の東端に位置しております。平成24年3月には岩屋・遠見ヶ鼻の芦屋層群として、県の天然記念物に



も指定されております。このため、この遠見ヶ鼻を訪れる人が快適に過ごしていただけるように、平成29年3月に福岡県が多目的トイレを併設した休憩所を以前と同じ場所に再整備し、現在北九州市がその管理をしています。

一方で、展望台や遊歩道を新たに整備するには、現在の土地の形状を変更することとなります。この場合、国定公園内の区域であるため、自然公園法に基づき、計画時に福岡県環境審議会に諮る必要があること、防風保安林、風致地区、県指定天然記念物にも指定されており、様々な規制を受けることなどの課題があります。

議員の御提案は、滞在時間の延長や、回遊性を高めるための方策の一つは考えますが、自然環境への影響をどう考えるかなどの課題があることから、今後関係機関と共に研究していく必要があると考えております。

### 産業経済局長答弁

オルレについてお答えいたします。韓国人に人気の韓国済州島起源のオルレとは、四季折々の美しい自然を満喫しながら、自分のペースで歩くトレッキングコースのことです。北九州市におきましても、過去オルレの導入について研究しました。結論といたしましては、初期投資のほか、基準に沿ったコースの維持運営経費がかかること、調査当時、他の自治体のコースでは、韓国人旅行者の利用者がそれほど多くなかったこと、トレッキング客は現地での消費額が少ないことなどから、費用対効果に鑑み導入を見送った経緯があります。

一方、議員御提案の高塔山公園を起点にグリーンパーク北ゲートに至る玄海遊歩道は、若松北海岸や皿倉山を眺めながら、オルレと

同様に自然を堪能できる魅力的なコースであると思います。さらに、若松区には市内最大の都市公園グリーンパーク内のキャンプ場、美しい海に面したグランピング施設、玄界灘に沈む夕日が美しい遠見ヶ鼻など、体験型滞在型の観光施設なども充実いたしております。こうした点在する観光資源をつなぐことで、オルレなどアウトドア・アクティビティを旅行の目的とする韓国人観光客にとって、魅力的なコンテンツになる可能性があると考えております。

こうしたことから、今後のニーズの高まりや様々な課題の解決方法などを含めまして、総合的視点から研究してまいりたいと考えています。

## 令和5年12月議会

### 響灘地区周辺道路の通勤時間帯の渋滞について

若松の未来を考える検討会の中で、響灘地区周辺道路の渋滞緩和策を講じてほしいとの意見が多数あり、また、生活道路として住民の方からも同様の声が上がりました。

私も周辺道路を頻繁に通行しますが、時間帯によっては、僅か5キロの道のりを、30分以上かかるケースもあります。そのため、国道199号を利用することもありますがこちらも通勤時間帯は、慢性的な渋滞となっております。響灘地区周辺道路の渋滞緩和に向けた今後の対策について、交通局や地元企業、地元住民などの要望者とも話をしているところですが、具体的な解決策が得られていないのが現状です。

ここで2点要望したいと思っております。

現在、北九州市交通局の事業が大変厳しい状況にありますが、収益確保も兼ねて、若松区を拠点とする市営バスの活用を検討してほしいと思います。

1点目に、例えば、ある程度の広さを有する駐車場等を拠点として、響灘地区の主な拠点までの市営バスによるシャトルバスや巡回バス等の運行。

2点目に、複数の社員寮を持っていて、事業所までバス送迎を行っている企業がありますが、その一方で、大規模な社員寮で通勤手段が自家用車でしかないケースでの社員寮から事業所までのシャトルバスの運行、これも市営バスが運行にかかわることができればよいかと思っております。

このような取組を検討してはと考えていますがこれは要望とさせていただきます。

渋滞緩和策を検討するに当たっては、周辺地域の理解や道路を利用する人など、様々な方々の理解が必要になると思います。

現在、脱炭素に向けて、CO2の削減に向けた取組が行われていますが、このような観点から渋滞緩和策として、渋滞が発生する地域へ自家用車の乗り入れを制限する方法です。自家用車の乗り入れを制限することで、交通渋滞の緩和、渋滞による無駄な燃料の消費も軽減され、CO2の削減にも寄与する可能性があります。

また、この取組により、地域社会や環境に対するポジティブな影響を生む可能性もあると考えています。市営バスを運行する中で、この周辺道路の渋滞の緩和策について、交通局の見解をお伺いいたします。